

当院から投稿し、掲載された学術論文

中山獣医科病院

2003年1月 獣医麻酔外科学雑誌 34(1) - 英文 -

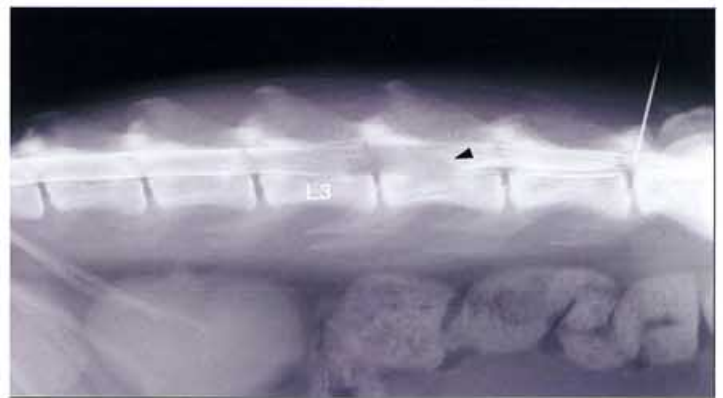
Intervertebral disc disease in a cat (猫の椎間板ヘルニアの1例)

田中 宏 中井リカ 北村雅彦 中山正成

Intervertebral disc disease in a cat

An 8-year-old, neutered male domestic shorthair cat that was mainly kept indoors was presented with a complaint that the cat became unsteady in both hind limbs. At the first examination, hind limb paraplegia and incontinence were recognized. From radiographic and myelographic findings, intervertebral disc disease was suspected although it was known to be uncommon in cats. Surgical decompression was accomplished by hemilaminectomy and durotomy. As the degenerated disc material was found free within the spinal canal, a diagnosis of Hansen's type I intervertebral disc disease was made. Following the operation normal ambulation was recovered.

主に屋内飼育されていた8歳齢、体重8.4kgの去勢雄の雑種猫が、外出後突然の両後肢ふらつきを主訴として来院した。初診時は後肢対麻痺、排尿排便のコントロールが不可能であるとう神経症状を呈していた。単純X線検査、脊髄造影検査所見から、猫において非常に稀とされている椎間



脊髄造影検査により第3、第4腰椎部で造影剤の欠損が認められる。この所見は脊髄浮腫を疑う所見ですが、減圧術の結果、椎間板ヘルニアと診断された。

板疾患を疑い、片側椎弓切除術および硬膜切開術による外科的減圧術を行った。手術により脊柱管内に変性した椎間板物質が認められたことから、ハンセン I 型の椎間板ヘルニアと診断した。術後、排尿排便のコントロールは可能となり、正常歩行も可能となった。

椎間板ヘルニアは犬における神経疾患としては一般的ですが、猫での報告は少なく、珍しいと言われています。要因としては加齢および重い体重が考えられます。類似した症状を出す疾患として脊椎外傷(事故など)、感染症、心疾患、脊髄あるいは脊椎腫瘍があります。

この椎間板ヘルニアは早期診断、早期診断および治療が非常に重要で、治癒もその速さに影響されます。